

## 伝承文学教育の課題（2）

—— 中3における『遠野物語』の学習指導 ——

筑波大学附属駒場中・高等学校

石井 正己

## 伝承文学教育の課題（２）

### ——中３における『遠野物語』の学習指導——

筑波大学附属駒場中・高等学校

石井 正己

#### （１）はじめに

本校では、毎年、５月下旬、高３を除いて、一斉に校外指導を行っている。中３は、東北地方（岩手県中心）において３泊４日で行うことになっている。そのコースは、予算の範囲内で、学年によって選択してゆくことができるが、たまたま、今年度（１９９２年度）の４４期生は、岩手県遠野市に２泊することになった。中３の校外指導は、１９８８～９１年度の４年間、その範囲を山形県に限定していたので、遠野市を訪れるのは、１９８６年度の３８期、１９８７年度の３９期以来のことになる。

この学年の国語科の授業週２時間を担当することになった私は、校外指導の前後、実験的に、柳田国男の『遠野物語』の学習指導を行ってみた。本稿は、その授業の経過と生徒たちのフィールドワーク、そして３回にわたって実施したアンケート調査の報告である。これまでに、中３の校外指導にあわせて、松尾芭蕉の『奥の細道』（平泉、立石寺、出羽三山）などの作品や、宮沢賢治・石川啄木・斎藤茂吉などの作家の作品を扱うことはあったが、『遠野物語』を大きく取り扱うことは初めてであった。

現在、『遠野物語』を採択する教科書は、中学校にはなく、高等学校の三省堂『高等学校 国語Ⅱ 三訂版』（「十五 伝承のいぶき」の「遠野の伝承〔遠野物語〕 柳田国男」）と東京書籍『高等学校 新編現代文 新訂版』（「十二 記録」の「遠野物語 柳田国男」）のみである。そうした設定から考えると、中３の授業で『遠野物語』を読むというのは、早すぎるのではないかという印象を免れない。しかし、もし、中３では難しすぎるという結果が出れば、校外指導の拠点の一つを、『遠野物語』の世界を知るところを主眼にした遠野市に置くことそれ自体が問われなければならない。以下は、少々の不安を抱きながら、失敗することを覚悟の上で実施することにした実験的授業の報告である。

#### （２）授業の経過

A) 事前…柳田国男『遠野物語』（角川文庫、１９９２年、３５０円）を一括購入して、４月中旬に配付した。角川文庫は流布本とも言えるほどよく読まれている本であるので、これを採択した。本文としては、新潮文庫のほうが良い面をもつが、品切れのために使え

なかった。なお、岩波文庫、ちくま文庫、集英社文庫などにも、『遠野物語』が収められているが、これらは「遠野物語拾遺」を載せていないので、採択の対象から外した。

- B) 授業…5月11日～6月22日の10時間をあてた。なお、校外指導はその途中、5月20～23日に実施されたので、第3時までが校外指導前の学習指導、第4時からが校外指導後の学習指導になる。

#### 第1時—遠野郷の起源と宮という家の伝承—

- A 「『遠野物語』を読む(10時間計画)」という資料(本稿末尾資料①参照)を配付し、テキスト、予定、評価、参考資料を示した。
- B 「『遠野物語』アンケート(1)」(第3節参照)を実施した。これは、遠野という場所についての意識、『遠野物語』の読書についての状況、『遠野物語』に出てくる主要語彙20語についての知識、昔話(民話)についての興味、昔話(民話)の享受の仕方や場所についての状況、昔話(民話)などについての知識を尋ねたものである。
- C 『遠野物語』の物語1と拾遺138～141を読む。物語1は遠野という場所の説明に続いて、「遠野郷の地大昔はすべて一円の湖水なりしに、その水猿ヶ石川となりて人界に流れ出でしより、自然にかくのごとき邑落をなせしなり」とあって、遠野郷という土地の誕生を語る起源譚になっている。この「大昔」は、ここと物語2にだけ見られる、『遠野物語』の発端の時間を設定する言葉になっている。この言葉は、人間が居住する前の神々の時間であることを示す。そして、拾遺138は、宮という家の元祖がその湖水に鮭に乗って入ってきたことを書きとめている。続いて拾遺139は、宮という家の危難を鮭の皮が知らせたので、以後鮭の皮を食わなかったことを書いている。鮭を食わない家の由来譚である。拾遺140は、こうあん様という医者(宮という家の一族だという伝承がある)の娘が神隠しに遭ったが、数年後勝手の流し前から鮭が跳ね込んだので、それを娘の化身と考えて以後鮭を食わないことにしたと書いている。これも鮭を食わない家の由来譚である。拾遺141は、宮という家の開けぬ箱を開いて見ると、市松紋様のようなかたのある布片が一枚入っていただけだったとある。この布片は、拾遺139とあわせて読むとき、鮭の皮だったのではないかと推定される。そして、拾遺139と141は、この宮という家の元祖以来の、鮭にまつわる信仰が衰えていることを感じさせる伝承になっている。

(参考文献 三浦佑之『村落伝承論—「遠野物語」から—』(五柳書院, 1987年))

#### 第2時—遠野三山の伝承、ザンキワランの立てる音—

- A 物語2には、遠野の川と山を説明し、女神が三人の娘を連れて、今の伊豆権現の社がある場所に宿った夜、母の神が「今夜よき夢を見たらん娘によき山を与ふべし」

と言って寝たところ、姉の姫の胸の上に降った霊華を末の娘が取って自分の胸の上に載せたので、最も美しい早池峰山を得、姉達は六角牛山と石神山を得た、とする遠野三山の神々の起源譚を書いている。文庫本の末尾にある「遠野郷本書関係略図」と『遠野市立博物館ガイド』（遠野市立博物館）の『『遠野物語』の舞台』で、その三山と伊豆権現の位置などを確認した。また、末の姫の「取る」（盗む）という行為が一種の知恵の働きであることをおさえ、末子成功譚に属することを考察した。そして、末尾は「若き三人の女神各三つの山に住し、今もこれを領したまふゆゑに、遠野の女どもはその妬みを恐れて今もこの山には遊ばずといへり」とあって、遠野の女性が三山に登らないことの由来譚になっている。この民俗と対応する伝承として、拾遺12に、女人禁制の山である石神山に、一人の巫女が牛に乗って登ったところ、大雨風が起こって吹き飛ばされて石になったことを書いている。「姥石」「牛石」の由来譚である。物語2と拾遺12とは補完関係にあって、遠野三山を女人禁制の山とする信仰を支える働きをしていることになる。

B 物語17・18. 拾遺87～91には、「御蔵<sup>おくら</sup>ボッコ」「座敷ワラン」と呼ばれる妖怪の物語がある。まず「御蔵」「座敷」という場所のもつ意味を確かめた。このザンキワランの起源を考えるために、佐々木喜善の『遠野のザンキワランとオシラサマ』（宝文館、1977年）の河童起源説を読んだ。物語17から、旧家に住むこと、童児であること、この神（妖怪）のいる家は富貴自在であることなどを確認した。そして、ザンキワランが「しきりに鼻を鳴らす音」を立てる理由を、昔話「鼻たれ小僧様」（熊本県）（柳田国男『日本の昔話』（角川文庫、1973年））と関わらせて考察してみた。つまり、竜神様からもらった鼻たれ小僧様は鼻をかむ音を立てて、爺の望む宝物を次々と出してみせるが、ザンキワランの「鼻を鳴らす音」もまた、家の富貴自在を保証する音だったのではないかというのである。しかし、物語17の「紙のがさがさといふ音」、拾遺90の「糸車をまわす音」については、音の意味を考察することができなかった。

### 第3時—昔話「食わず女房」のテープを聞く—

A 遠野では、三つの宿舎それぞれに昔話の語り手に来ていただいて昔話などを聞く予定があるので、その練習のために昔話のテープを聞いた。遠野の昔話集としては、佐々木徳夫『遠野の昔話』（桜楓社、1985年）があり、録音テープも付いているので、これを利用した。録音のある昔話の中から、阿部サダさんの「食わず女房」を取り上げて、2回聞いた。まず第1回は、テープだけを聞いた。どの程度理解できているかを知るために、B・C組の2組で挙手させてみたところ、よくわかる…0%、だいたいわかる…2%、少しわかる…22%、まったくわからない…86%であった。その後、同じ阿部サダさんの「食わず女房」を翻字した資料（本稿末尾資料②

参照)を配付し、第2回は、その資料を見ながらテープを聞いた。第1回と同じようにB・C組の2組で挙手させてみたところ、よくわかる…25%、だいたいわかる…67%、少しわかる…7%、まったくわからない…0%、無…1%であった。そして、資料を読み、その内容を理解させた。ちなみに、「『遠野物語』アンケート(1)」

(第3節参照)では、この「食わず女房」を知っている生徒は、23%であった。

B校外指導の直前の授業だったので、『遠野市立博物館ガイド』(遠野市立博物館)の「『遠野物語』の舞台」を見ながら、物語58の河童駒引譚、物語69のオシラサマの起源譚、物語88の魂の来訪譚を読み合った。

#### 第4時『遠野物語』の言葉ー

A校外指導後、最初の授業なので、「『遠野物語』アンケート(2)」(第4節参照)を実施した。これは、遠野で見学した場所についての感想、遠野で接した場所や行事、講演などの中から最も印象に残ったことを尋ねたものである。

B『遠野物語』の中で、厳密な意味で昔話やそれに関する事柄を書いたと見ることができるのは、物語115～118にすぎない。そうした点からすれば、『遠野物語』は、すべてを昔話集と見ることはできない。だから、今回遠野の語り手三人から聞いた昔話は、『遠野物語』の内容と直結するものではないことを確認する。その上で、正部家ミヤさん・白幡ミヨシさん・阿部ヤエさんの昔話をどの程度理解できたかを、各組で挙手させてみたところ、よくわかった…50%、だいたいわかった…30%、少しわかった…17%、まったくわからない…3%であった。

Cおそらく佐々木喜善の語りも、そうした方言あるいは方言を交えたものであったにちがいないのに、『遠野物語』の言葉が方言をほとんど消し去っていることを確認する。「遠野物語」は明治43年に、喜善の語りを聞いて柳田国男が書いたもので、これは文語文であり、「遠野物語拾遺」は昭和10年に、喜善の書いたものを柳田と鈴木棠三(後に多くの辞典を執筆した人)が書き直して増補したもので、これは口語文である。文語文と口語文という違いはあるが、どちらも方言ではなく、共通語であるという点では一致することを考察した。この時期は、まず技術面から考えても、佐々木徳夫『遠野の昔話』(桜楓社、1985年)が録音テープを使って記録したのと違って、語ることをそのまま書き残すことが困難であった。しかし、共通語で書かれているために、『遠野物語』は今日まで広く読まれることにもなった。

#### 第5時ー山口孫左衛門家の盛衰ー

A物語18～21は、山口孫左衛門家の盛衰を語る一連の物語である。この家は地名山口を姓とする「この村草分の長者」であることを確認する。物語18は、ザンキワランが家を出ることが没落の前兆になっていることを書いている。だが、この家が没落するには、あるいはザンキワランが家を出るには、それだけの原因があったのでは

ないかと考えていった。物語19は、この一家が茸の毒にあたって、七歳の女の児を残して死んでしまったこと記し、物語20は、その前兆として、たくさんの蛇を殺して、蛇塚に祭ったことを記している。この二つの物語はどちらも、主人である最後の代の孫左衛門が止めたにも関わらず、男（下男）がそれを聞かないことが語られている。つまり、この長者の家は、男（下男）を主人が統制できない、内部崩壊を起こした家になってしまっているのである。そして、物語21は、主人である最後の代の孫左衛門が狐を使って家を豊かにしようとしたことを書いている。こうして見えてくると、この孫左衛門は呪術を使ってさらに豊かになろうとしたが、召し使う男（下男）を管理して労働によって豊かになろうとしなかったのだ、ということになる。そして、物語18～21という構成は、山口孫左衛門家がなぜ没落したのかという原因を掘り下げてゆくような展開になっていることがわかった。

B 物語18のザシキワランに関連させて、三浦哲郎の小説『ユタとふしぎな仲間たち』（新潮文庫、1984年）を読み、間引き起源説によっていることを確かめる。

#### 第6時－異類婚姻譚を考える－

A 広く異類婚姻譚について考える。昔話の中には、人間と異類との婚姻を語るものが数多く見られることを確認する。そうした異類婚姻譚は、大きく人間が男性である場合と女性である場合とに分けられる。前者は、「鶴女房」「狐女房」などという「……女房」型の昔話になり、後者は、「猿の婿入」「蛇の婿入」などという「……婿入」型の昔話になる。具体的には、「鶴女房」と「猿の婿入」の例を挙げて説明した。こうした昔話は、多く人間と異類が別れるという離別型になる。しかし、三輪山神話のように、神話や伝説の中には、人間と異類との間に子供が誕生するという英雄型も見られる。そして、前者は異類排除、後者は異類歓待につながるものであり、古くからこうした二面性を持っていたらしいことを説明した。

（参考文献 小松和彦『説話の宇宙』（人文書院、1987年））

B すでに見た物語69は、オシラサマの起源譚であり、馬と娘の婚姻を語っている。この場合は架空の物語であるが、物語55は、河童の子を産んだという、事実としての異類婚姻譚になっている。この場合、「水掻き」が河童の子である動かぬ証拠になっている。これを、遺伝的な形質として見る考えもあるが、「村の何某といふ男」との関係を隠蔽する物語としても読むことができる。また、物語56では、「河童らしき物の子」とややばやかした言い方になっているが、この異類の子の扱い方には二つあることがわかる。一つは「道ちがへ」に捨てることであり、もう一つは「見せ物」として売ることである。前者は、古くからの民俗的な処置であり、後者は新しい都会的な処置であると思われる。

#### 第7時－初稿本と比較して読む－

『遠野物語』には、明治43年の初版に先立って初稿本があったことが知られている。現在、遠野市が所蔵する初稿本三部作（毛筆原稿本・ペン書き清書本・初校校正本）の中から、最も古い毛筆原稿本の物語55の本文を取り上げ、初版の物語55の本文と比較した（本稿末尾資料③参照）。それに角川文庫本をあわせてみると、物語の末尾に、大きな違いがあることが確かめられた。つまり、毛筆原稿本「白岩市兵衛といふ士族」、初版本「〇〇〇〇〇と云ふ士族」、角川文庫本「何の某といふ士族」であった。これは、最初は実名であったのに、出版に際して伏字にし、さらにその名前を想像させないように変えている。最終的な段階の「何の某」は、物語55の「何某」とほとんど差異がない。こうして見ると、河童の子を産んだ家の名は隠されなければならないものとして、柳田がこだわり続けた箇所だったということになる。

（参考文献 小田富英「初稿本『遠野物語』の問題」（『国文学』、1982年1月）、石井正己「『遠野物語』の文献学的研究」（『口承文芸研究』、1993年3月）

#### 第8時－『遠野物語』の序文－

『遠野物語』初版の序文は、「この話はすべて遠野の人佐々木鏡石君より聞きたり。昨明治四十二年の二月頃より始めて夜分をりをり尋ね来たり、この話をせられしを筆記せしなり。鏡石君は話上手にはあらざれども誠実なる人なり。自分もまた一字一句をも加減せず感じたるままを書きたり」と、佐々木喜善からの聞き書きの経緯を記したところから始まる。その書き方として「感じたるまま」を書いたとするのは、「語りたるまま」「聞きたるまま」に比べて、書き手である柳田の主観性が強く入り込むことを考察した。この「感じたるまま」は、先の共通語である文語体の採用や物語の持つ文学的な性格とも関わっている。そして、序文の終わりで、この物語が「今は昔の話」「妄誕」ではなく、「目前の出来事」「現在の事実」とであると位置付けている。こうした「目前の出来事」「現在の事実」という性格を保証しているのが、冒頭の語り手喜善と書き手柳田を「誠実」とであるとする人物造型であることがわかってくる。

（参考文献 石井正己「『遠野物語』の文献学的研究」（『口承文芸研究』、1993年3月）

#### 第9時－『遠野物語』の助動詞－

何を書いているかという内容の問題ではなく、どのように書いているかという表現の問題を考えてゆこうとすると、書き手の姿勢がはっきり出る言葉に助動詞がある。文語体で書かれた「遠野物語」の中から、物語3の山人譚を取り上げて考えてみた。この物語には、「山々の奥には山人住めり」「今も七十余にて生存せり」や「長き髪を梳りてゐたり」「解きたる黒髪は」のような存続の助動詞「り」「たり」と、「この翁若かりし頃獺をして山奥に入りしに」「そのたけよりも長かりき」のよ

うな過去の助動詞「き」が多く見られる。「遠野物語」全体をとおしても、過去の助動詞のうち、「き」は多く見られるが、物語文学や説話文学に多く見られる「けり」はほとんど見られない。この物語がそうした文学と一線を画することを示す重要な指標になっている。たまたまこの物語3には、「睡眠を催しければ」と、数少ない助動詞「けり」の用例が見られるけれども。そして、存続の助動詞「り」「たり」は「……ている」という意味を表し、過去の助動詞「き」は「確かに……た」という意味を表すので、こうした助動詞が序文にいう「目前の出来事」「現在の事実」という性格を保証する文体を作り上げていることがわかる。さらに言えば、柳田が山人の実在を確信していたために、こうした助動詞を使ったと考えることもできる。そして、柳田は自分で作り上げた文体に呪縛されてゆくことにもなった。

(参考文献 石井正己「『遠野物語』の表現を読む」(『日本文学』, 1991年8月), 石井正己「柳田国男の仕事」(『高校通信東書国語』, 1992年10月))

#### 第10時—井上ひさし『新釈遠野物語』の世界—

A『遠野物語』をハロディー化した作品に、井上ひさしの『新釈遠野物語』(新潮文庫, 1980年)がある。この中には、9つの物語が入っているが、その中から冒頭にある「鍋の中」を取り上げた。この物語は、『遠野物語』の序文をはじめ、物語6, 7, 拾遺110の山男譚や物語10などを引用しながら、「艶っぽい笑い話」に仕立て直されている。聞き手である「ぼく」は、語り手である犬伏太吉老人に「夢」の話をされて「まんまと騙され」てしまうのであるから、作品の中に語りの場を設定して、その中で語られた話は『遠野物語』にいう「目前の出来事」「現在の事実」とは対照的である。プリントを配付し、それを見ながら、すまけいの朗読(井上ひさし『新釈遠野物語』(新潮カセットブック, 1987年))をテープで聞いた。生徒達は「僕」と同じ立場に立って聞き、やはり「まんまと騙され」たようだった。

(参考文献 扇田昭彦「解説」(『新釈遠野物語』, 新潮文庫, 1980年))

B戸田閑男『英訳遠野物語』(私家版, 1983年)の中から、物語3の資料(本稿末尾資料④参照)を配付し、簡単に説明した。

C授業を終了するにあたって、「『遠野物語』アンケート(3)」(第5節参照)を実施した。これは、『遠野物語』の授業で学習したこと21項目についての感想、『遠野物語』の授業や遠野の校外指導を経験してみて感じたことや考えたことを尋ねたものである。

C) 事後…①「『遠野物語』を読む」というテーマでレポートを書かせる(本稿末尾資料①参照)。

②学期末試験に出題する(本稿末尾資料⑤参照)。



### (3)『遠野物語』アンケート(1)

授業を始めるにあたって、1992年5月11日、121名の生徒を対象に実施したアンケートとその結果は、次のとおりであった。1)～3)は遠野および『遠野物語』に関することであり、4)～7)は昔話(民話)などに関するものである。

1)「遠野」という場所について、あてはまるものにすべて「○」を付けなさい。

- ア どこか知らない。
- イ どこか知っている。
- ウ 行ったことがある。
- エ 通ったことがある。
- オ 行ったことはない。

ア	27名 (22.3%)
イ	88名 (72.7%)
ウ	1名 ( 0.8%)
エ	3名 ( 2.4%)
オ	92名 (76.0%)
無	2名 ( 1.7%)

2)『遠野物語』について、あてはまるものに「○」を付けなさい。

- ア 読んだことはない。
- イ 少し読んだ。
- ウ 半分近く読んだ。
- エ ほぼ全部読んだ。

ア	63名 (52.1%)
イ	44名 (36.4%)
ウ	6名 ( 4.9%)
エ	5名 ( 4.1%)
無	3名 ( 2.5%)

3) 次の①～⑳の言葉について、ア～ウの中からあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ① オクナイサマ ( ) | ② オシラサマ ( ) |
| ③ ザシキワラシ ( ) | ④ ゴンゲサマ ( ) |
| ⑤ カクラサマ ( )  | ⑥ 天狗 ( )    |
| ⑦ 河童 ( )     | ⑧ 猿の経立 ( )  |
| ⑨ 神隠し ( )    | ⑩ マヨヒガ ( )  |
| ⑪ 山の神 ( )    | ⑫ 田の神 ( )   |
| ⑬ 山男 ( )     | ⑭ 山姥 ( )    |
| ⑮ 山伏 ( )     | ⑯ イタコ ( )   |
| ⑰ 長者 ( )     | ⑱ 盆 ( )     |
| ⑲ 小正月 ( )    | ⑳ 獅子踊り ( )  |

ア 内容を知っている。

イ 言葉だけは知っている。

ウ まったく知らない。

	ア	イ	ウ	無
①	0名 ( 0.0%)	12名 ( 9.9%)	109名 (90.1%)	0名 ( 0.0%)
②	9名 ( 7.4%)	23名 (19.0%)	89名 (73.6%)	0名 ( 0.0%)
③	74名 (61.1%)	37名 (30.6%)	10名 ( 8.3%)	0名 ( 0.0%)
④	2名 ( 1.7%)	24名 (19.8%)	94名 (77.7%)	1名 ( 0.8%)
⑤	0名 ( 0.0%)	7名 ( 5.8%)	114名 (94.2%)	0名 ( 0.0%)
⑥	76名 (62.8%)	42名 (34.7%)	3名 ( 2.5%)	0名 ( 0.0%)
⑦	83名 (68.6%)	36名 (29.7%)	2名 ( 1.7%)	0名 ( 0.0%)
⑧	2名 ( 1.7%)	18名 (14.9%)	100名 (82.6%)	1名 ( 0.8%)
⑨	72名 (59.5%)	43名 (35.5%)	6名 ( 5.0%)	0名 ( 0.0%)
⑩	0名 ( 0.0%)	14名 (11.6%)	106名 (87.6%)	1名 ( 0.8%)
⑪	12名 ( 9.9%)	60名 (49.6%)	49名 (40.5%)	0名 ( 0.0%)
⑫	3名 ( 2.5%)	29名 (24.0%)	89名 (73.5%)	0名 ( 0.0%)
⑬	29名 (23.9%)	67名 (55.4%)	25名 (20.7%)	0名 ( 0.0%)
⑭	43名 (35.6%)	39名 (32.2%)	39名 (32.2%)	0名 ( 0.0%)
⑮	42名 (34.7%)	52名 (43.0%)	27名 (22.3%)	0名 ( 0.0%)
⑯	26名 (21.5%)	44名 (36.4%)	51名 (42.1%)	0名 ( 0.0%)
⑰	57名 (47.1%)	48名 (39.7%)	16名 (13.2%)	0名 ( 0.0%)
⑱	54名 (44.7%)	51名 (42.1%)	16名 (13.2%)	0名 ( 0.0%)
⑲	31名 (25.6%)	55名 (45.5%)	35名 (28.9%)	0名 ( 0.0%)
⑳	36名 (29.8%)	69名 (57.0%)	16名 (13.2%)	0名 ( 0.0%)

4) 昔話（民話）に興味がありますか。あてはまるものに「○」を付けなさい。

ア 小さいときも今もあまりない。

イ 小さいときはあったが、今はない。

ウ 小さいときはなかったが、今はある。

エ 小さいときも今もある。

オ なんともいえない。

ア	28名 (23.1%)
イ	40名 (33.1%)
ウ	7名 ( 5.8%)
エ	23名 (19.0%)
オ	23名 (19.0%)
無	0名 ( 0.0%)

5) 昔話（民話）を何で知りましたか。あてはまるものにすべて「○」を付けなさい。

ア 大人から聞いた。

イ テレビで見た。

ウ 紙芝居で見た。

エ 絵本で読んだ。

オ その他 ( )

ア	63名 (52.1%)
イ	92名 (76.0%)
ウ	41名 (33.9%)
エ	108名 (89.3%)
オ	8名 ( 6.6%)
無	0名 ( 0.0%)

オの内容

- ・友達から聞いた… 1名
- ・カセットテープ… 2名
- ・教科書…………… 1名
- ・本…………… 4名

6) 昔話（民話）をどこで知りましたか。あてはまるものにすべて「○」を付けなさい。

ア 家庭で。

イ 幼稚園・保育園で。

ウ 小学校・中学校で。

エ 図書館・児童館で。

オ その他 ( )

ア	106名 (87.6%)
イ	73名 (60.3%)
ウ	51名 (42.1%)
エ	39名 (32.2%)
オ	2名 ( 1.7%)
無	1名 ( 0.8%)

オの内容

・テレビ…………… 2名

7) 次の①～⑳の話について、ア～ウの中からあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

- |             |            |
|-------------|------------|
| ①桃太郎 ( )    | ②猿蟹合戦 ( )  |
| ③舌切り雀 ( )   | ④花咲爺 ( )   |
| ⑤かちかち山 ( )  | ⑥話千両 ( )   |
| ⑦時鳥と兄弟 ( )  | ⑧塩吹臼 ( )   |
| ⑨猿の婿入 ( )   | ⑩食わず女房 ( ) |
| ⑪機織淵 ( )    | ⑫河童駒引 ( )  |
| ⑬蜘蛛淵 ( )    | ⑭鷺の子育て ( ) |
| ⑮三年寝太郎 ( )  | ⑯鮭の大助 ( )  |
| ⑰くらげ骨無し ( ) | ⑱大工と鬼六 ( ) |
| ⑲沼神の手紙 ( )  | ⑳屁っこき嫁 ( ) |

ア 内容を知っている。

イ 題名だけは知っている。

ウ まったく知らない。

	ア	イ	ウ	無
①	121名(100.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)
②	119名 (98.3%)	2名 ( 1.7%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)
③	113名 (93.4%)	8名 ( 6.6%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)
④	121名(100.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)
⑤	114名 (94.2%)	7名 ( 5.8%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)

⑥	2名 ( 1.7%)	12名 ( 9.9%)	104名 (85.9%)	3名 ( 2.5%)
⑦	2名 ( 1.7%)	7名 ( 5.8%)	111名 (91.7%)	1名 ( 0.8%)
⑧	36名 (29.8%)	11名 ( 9.1%)	74名 (61.1%)	0名 ( 0.0%)
⑨	10名 ( 8.3%)	24名 (19.8%)	86名 (71.1%)	1名 ( 0.8%)
⑩	28名 (23.1%)	19名 (15.7%)	73名 (60.4%)	1名 ( 0.8%)
⑪	1名 ( 0.8%)	7名 ( 5.8%)	112名 (92.6%)	1名 ( 0.8%)
⑫	11名 ( 9.1%)	11名 ( 9.1%)	98名 (81.0%)	1名 ( 0.8%)
⑬	16名 (13.2%)	4名 ( 3.3%)	100名 (82.7%)	1名 ( 0.8%)
⑭	4名 ( 3.3%)	8名 ( 6.6%)	108名 (89.3%)	1名 ( 0.8%)
⑮	64名 (52.9%)	37名 (30.6%)	19名 (15.7%)	1名 ( 0.8%)
⑯	0名 ( 0.0%)	5名 ( 4.1%)	115名 (95.1%)	1名 ( 0.0%)
⑰	20名 (16.5%)	12名 ( 9.9%)	89名 (72.8%)	1名 ( 0.8%)
⑱	39名 (32.2%)	15名 (12.4%)	67名 (55.4%)	0名 ( 0.0%)
⑲	8名 ( 6.6%)	3名 ( 2.5%)	109名 (90.1%)	1名 ( 0.8%)
⑳	67名 (55.4%)	19名 (15.7%)	35名 (28.9%)	0名 ( 0.0%)

#### 【考察】

A 1) は、ア・イの選択肢とウ～オの選択肢とやや性格が異なるのに、一度に尋ねてしまったのは失敗であった。予想したとおり、生徒にとって、遠野はどこか知っているが、行ったことのない場所であった。

B 2) を見ると、『遠野物語』は、半月近く前に配付されたが、半数以上の生徒はまだ読んでいず、3人に1人程度が少し読んでみたという状況である。校外指導の10日前であるが、自分から読もうという意識は弱いことがわかる。

C 3) を見ると、内容を知っているが半数を超えるのは、③ザンキワラン、⑥天狗、⑦河童、⑨神隠しだけであり、言葉だけは知っているが半数を超えるのは、⑬山男、⑳獅子踊りだけである。これらは、『遠野物語』でも重要なものであるが、2) の結果をからすれば、『遠野物語』以外で知ったことだと考えられる。言葉だけは知っているが3人に1人程度あるものが多いので、これまでなんとなく耳にしたことはあるらしい。まったく知らないが半数を超えるのは、①オクナイサマ、②オンラサマ、④ゴンゲサマ、⑤カクラサマ、⑧猿の経立、⑩マヨヒガ、⑫田の神であり、これらは神様や妖怪なので、②・⑫を除いて、『遠野物語』に触れていないと、知る機会はほとんどなかろう。

D 4) は、イが多いことは予想されたが、エの数がアの数に近くあるのは意外であった。注意すべきは、アとイとあわせて、今、昔話（民話）に興味のない生徒が半数いることである。

う。半数以上の生徒が昔話（民話）に興味を持っていない中で、それとはやや性格を異にするにしても、『遠野物語』を扱うことは困難が予測される。

E) 5)・6)からは、生徒達がさまざまなメディアを通じて、さまざまな場所で昔話（民話）に接してきたことがわかる。かつてのイロリでの語りがほとんどなくなったといっても、昔話（民話）の享受自体は衰弱していないことがわかる。

F) 7)は、いわゆる「五大昔話」と呼ばれる①桃太郎、②猿蟹合戦、③舌切り雀、④花咲爺、⑤かちかち山は、ほぼ全員の生徒が知っている。しかし、それ以外になると、半数を超えるのは、⑮三年寝太郎、⑯尻っこき嫁だけになる。こうして見ると、ある特定の昔話（民話）だけがよく知られていて、それ以外に対する関心は弱いことになる。この昔話（民話）の理解については、さらに選択肢を増やして行うことと個人差があるかどうかを確かめることが今後の課題としてある。

#### (4)『遠野物語』アンケート(2)

5月20日は、毛越寺・中尊寺を見学した後、班(4～5人の班が27班)行動になり、遠野へ直行して博物館・とおの昔話村を見学したり、花巻で宮沢賢治記念館に行ったりした。その夜は、3つの宿舎それぞれに昔話の語り手をお招きして昔話などを聞いた。担任団からは、「とても熱心に聞き、質問もした」という報告がある。21日は、遠野市内のサイクリングなどをして、午後、遠野市立青笹中学校に集合して、獅子踊りと合唱の交歓会を行った。その夜は、希望者50人近くが菊池春雄先生の講演を聞いた。やはり、担任団からは、「先生の熱弁に聞き入っていた」という報告があった。

校外指導を終了して、5月25日、117名の生徒を対象に実施したアンケートとその結果は、次のとおりであった。

1) 遠野で見学した場所について、その感想をア～エの中から選び、記号で答えなさい。見学していない場所については空欄のままでよい。

- |           |     |                |     |
|-----------|-----|----------------|-----|
| 1 阿曾沼公歴代碑 | ( ) | 2 愛宕神社         | ( ) |
| 3 阿部屋敷跡   | ( ) | 4 伊豆権現         | ( ) |
| 5 卯子酉様    | ( ) | 6 大槌街道跡        | ( ) |
| 7 角助の墓    | ( ) | 8 カッパ淵         | ( ) |
| 9 飢饉の碑    | ( ) | 10 北川家のオシラサマ   | ( ) |
| 11 キツネの関所 | ( ) | 12 旧菊池家住宅      | ( ) |
| 13 旧一日市   | ( ) | 14 旧村兵商家       | ( ) |
| 15 光興寺    | ( ) | 16 光明寺(天人の曼荼羅) | ( ) |
| 17 御前沼    | ( ) | 18 古道跡         | ( ) |

19五百羅漢	( )	20駒形神社	( )
21西教寺	( )	22佐々木喜善の生家	( )
23佐々木喜善の墓	( )	24さすらい地蔵	( )
25サムトの婆	( )	26十王堂	( )
27常堅寺 (カッパ狛犬)	( )	28水光園	( )
29水車小屋	( )	30清心尼公碑	( )
31多賀神社	( )	32太郎カッパ	( )
33ダンノハナ	( )	34千葉家の曲がり家	( )
35続石・泣石	( )	36妻の神の石碑	( )
37伝承園	( )	38デンデラ野	( )
39遠野市立博物館・図書館	( )	40遠野八幡宮	( )
41とおの昔話村	( )	42遠野物語の碑	( )
43鍋倉城跡	( )	44鳴り釜	( )
45早池峰古道	( )	46百姓一揆	( )
47福泉寺	( )	48法華題目の碑	( )
49程洞のコンセイサマ	( )	50母也明神	( )
51馬っこつなぎ	( )	52松崎観音堂	( )
53山口孫左衛門の家跡	( )	54山崎観音堂	( )
55山崎のコンセイサマ	( )	56横田城跡	( )
57その他	( )		

ア よかった (おもしろかった)。

イ 普通だった。

ウ よくなかった (おもしろくなかった)。

エ 特に印象に残っていない。

	ア	イ	ウ	エ	総人数
1	5名 ( 4.3%)	26名 (22.2%)	6名 ( 5.1%)	6名 ( 5.1%)	43名
2	10名 ( 8.5%)	41名 (35.0%)	8名 ( 6.8%)	4名 ( 3.4%)	63名
3	1名 ( 0.9%)	6名 ( 5.1%)	1名 ( 0.9%)	4名 ( 3.4%)	12名
4	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	1名
5	5名 ( 4.3%)	27名 (23.1%)	4名 ( 3.4%)	10名 ( 8.5%)	46名
6	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名
7	5名 ( 4.3%)	25名 (21.4%)	14名 (12.0%)	5名 ( 4.3%)	49名

8	39名 (33.3%)	39名 (33.3%)	5名 ( 4.3%)	2名 ( 1.7%)	85名
9	2名 ( 1.7%)	20名 (17.1%)	9名 ( 7.7%)	6名 ( 5.1%)	37名
10	5名 ( 4.3%)	5名 ( 4.3%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	10名
11	0名 ( 0.0%)	7名 ( 6.0%)	9名 ( 7.7%)	2名 ( 1.7%)	18名
12	9名 ( 7.7%)	7名 ( 6.0%)	0名 ( 0.0%)	2名 ( 1.7%)	18名
13	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	1名 ( 0.9%)	2名
14	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	2名 ( 1.7%)	1名 ( 0.9%)	4名
15	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	1名
16	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名
17	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名
18	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	1名
19	42名 (35.9%)	20名 (17.1%)	12名 (10.3%)	1名 ( 0.9%)	75名
20	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	2名 ( 1.7%)	2名
21	0名 ( 0.0%)	3名 ( 2.6%)	0名 ( 0.0%)	2名 ( 1.7%)	5名
22	4名 ( 3.4%)	1名 ( 0.9%)	2名 ( 1.7%)	0名 ( 0.0%)	7名
23	2名 ( 1.7%)	2名 ( 1.7%)	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	5名
24	3名 ( 2.6%)	18名 (15.4%)	10名 ( 8.5%)	3名 ( 2.6%)	34名
25	2名 ( 1.7%)	9名 ( 7.7%)	6名 ( 5.1%)	2名 ( 1.7%)	19名
26	4名 ( 3.4%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	4名
27	27名 (23.1%)	34名 (29.1%)	2名 ( 1.7%)	6名 ( 5.1%)	69名
28	7名 ( 6.0%)	2名 ( 1.7%)	1名 ( 0.9%)	0名 ( 0.0%)	10名
29	3名 ( 2.6%)	5名 ( 4.3%)	0名 ( 0.0%)	1名 ( 0.9%)	9名
30	3名 ( 2.6%)	6名 ( 5.1%)	2名 ( 1.7%)	3名 ( 2.6%)	14名
31	1名 ( 0.9%)	6名 ( 5.1%)	1名 ( 0.9%)	2名 ( 1.7%)	10名
32	1名 ( 0.9%)	8名 ( 6.8%)	6名 ( 5.1%)	3名 ( 2.6%)	18名
33	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名
34	10名 ( 8.5%)	10名 ( 8.5%)	0名 ( 0.0%)	2名 ( 1.7%)	22名
35	5名 ( 4.3%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	5名
36	4名 ( 3.4%)	4名 ( 3.4%)	3名 ( 2.6%)	2名 ( 1.7%)	13名
37	47名 (40.2%)	27名 (23.1%)	3名 ( 2.6%)	3名 ( 2.6%)	80名
38	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名 ( 0.0%)	0名
39	60名 (51.3%)	38名 (32.5%)	2名 ( 1.7%)	2名 ( 1.7%)	102名
40	16名 (13.7%)	21名 (17.9%)	6名 ( 5.1%)	0名 ( 0.0%)	43名
41	43名 (36.8%)	27名 (23.1%)	18名 (15.4%)	6名 ( 5.1%)	94名



42	0名 (0.0%)	5名 (4.3%)	1名 (0.9%)	3名 (2.6%)	9名
43	9名 (7.7%)	27名 (23.1%)	18名 (15.4%)	6名 (5.1%)	60名
44	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	1名
45	1名 (0.9%)	3名 (2.6%)	0名 (0.0%)	2名 (1.7%)	6名
46	1名 (0.9%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名
47	48名 (41.0%)	23名 (19.7%)	5名 (4.3%)	5名 (4.3%)	81名
48	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名
49	0名 (0.0%)	2名 (1.7%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名
50	2名 (1.7%)	6名 (5.1%)	1名 (0.9%)	3名 (2.6%)	12名
51	0名 (0.0%)	3名 (2.6%)	4名 (3.4%)	2名 (1.7%)	9名
52	9名 (7.7%)	30名 (25.6%)	12名 (10.3%)	9名 (7.7%)	60名
53	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名
54	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名
55	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	1名
56	3名 (2.6%)	3名 (2.6%)	11名 (9.4%)	1名 (0.9%)	18名
57	弁慶の昼寝石 イ… 1名 (0.9%) 諏訪神社 イ… 4名 (3.4%) ウ… 1名 (0.9%) 智恩寺 ア… 1名 (0.9%) エ… 1名 (0.9%) 小鳥瀬川 ア… 1名 (0.9%) 加茂神社 イ… 2名 (1.7%) 高清水牧場 ア… 2名 (1.7%)				13名

2) 遠野で接した場所や行事、講演などの中から最も印象に残ったものを2つあげ、その理由を書きなさい。

1	61名 (52.3%)	昔話を聞いたこと
2	29名 (24.8%)	福泉寺
3	24名 (20.5%)	五百羅漢
4	13名 (11.1%)	伝承園
5	11名 (9.4%)	遠野の人々、カップパ淵
7	10名 (8.5%)	菊池春雄先生の講演
8	9名 (7.7%)	博物館

9	8名 ( 6.8%)	昔話村
10	5名 ( 4.3%)	獅子踊り, 高清水牧場, 続石・泣石
13	4名 ( 3.4%)	佐々木喜善の生家, 水光園
15	3名 ( 2.5%)	サムトの婆, 水田, 千葉家の曲がり家
18	2名 ( 1.7%)	母也明神, 鍋倉城跡, 手づくり村, 北川家のオンラサマ, 横田城跡, 前森山農場, 十王堂, 愛宕神社, タコ焼き屋
27	1名 ( 0.9%)	酒まんじゅう, レストラン, 諏訪神社, 清公尼公碑, さすらい地蔵, 福山荘
	3名 ( 3.4%)	無

＊理由については、【考察】で簡単に触れることにして、省略する。

#### 【考察】

A 1) からは、まず生徒達の見学した場所がほぼ限定されていることに気がつく。半数以上の生徒が見学しているのは、2 愛宕神社、8 カップ淵、19 五百羅漢、27 常堅寺（カップ狛犬）、37 伝承園、39 遠野市立博物館・図書館、41 とおの昔話村、47 福泉寺の 8 箇所である。これらの場所については、概ねア・イのどちらかを選択しているので、よい印象を持ったようだ。それぞれについての比率は、全体の生徒数に対して出しているが、見学した生徒数に対して出せば、もう少し違う読み取りも可能になるだろう。

B 2) では、半数以上の生徒が「昔話を聞いたこと」としているのが、最も注意される。その理由として、次のようなことを主に挙げている。

- ・遠野の人々は小さいころから、友達同士で昔話を語り合い、今まで伝わったと聞いて感動した。
- ・話し方がうまくて、飽きずに聞けた。内容もとてもおもしろかった。
- ・方言で語られたので、わからないかと思ったが、意外にも内容がわかった。昔話をたくさん知っているの、すごいと思った。
- ・内容はわからなかったが、頭の中にいくつもの話があるのはすごいと思った。
- ・いろいろな昔話を聞くことができた。また、遠野の方言に接することができた。「～あったずむな」と「どんとはれ」が印象に残った。
- ・聞きにくかったが、しゃれや教訓などがあり、とてもおもしろかった。
- ・普通の昔話でなくて、語り部の体験を語ってくれたから、よかった。
- ・生で聞くと、意外によく聞き取れた。とても面白くて、話の中へ引き込まれる感じもした。

わからない単語は解説もしていただいたので、とてもわかりやすかった。

- とにかく昔話は楽しかった。終わってからも、わが班のメンバーが中心になって、質問やアンコールを繰り返して、記念撮影までしてしまった。歌も歌ってもらえた。最高！
- おばあさんの話し方がおもしろく人間味があって、よかった。授業で聞いていたことが役に立った。内容もなかなかおもしろいものだった。
- 生で聞いたので、ジェスチャーもあり、とてもよかった。
- 授業で知っていた話もあったが、昔話を方言で話しているので、その表現も楽しかったし、内容も興味深かった。
- 意味がわかるようになると、リズムがよくて聞きやすかった。
- 最初は、「昔話なんてしらけるのでは」とか「方言でやだなー」とか思っていたのだが、来てくれた語り部さんがとてもやさしい人で、物語の途中で、ちゃんと中央の言葉で説明を入れてくれて、とてもよかった。
- 方言で聞くと、味があった。また、同じ話でも、少しずつ違うことがわかった。
- 昔話は単なる暇潰しの伝統ではなく、昔からの人々の経験に基づく知恵であることを知った。また、人々はあまり昔話を信じていないにもかかわらず、昔話を使って子供を床につかせたり、昔話で盗みを公認したり（遠野三山の由来）しているということも、興味深かった。
- 我々が「どんとはれ」や「むかすあったずもな」などと言って語ると、非常に不自然だが、語り部の方がおっしゃると、自然で、不思議だった。意外に知っている話も多く、とてもおもしろかった。
- おもしろい話の中にも、何か昔の人々の苦しみなどが体全体から伝わってきて、何か心を動かされるものがあった。
- 歌を歌ったり、いろいろサービスしてくれた。分かりやすかった。テープよりよかった。
- 昔話もうまく、何か引き寄せられる感じがしたし、昔話についてのいろいろなことも聞け、また、他にもいろいろためになるようなことが聞け、有意義な時間が過ごせた。
- おばあさんが昔のなまりで話す話が、すごくなつかしいものを感じさせた。

#### (5)『遠野物語』アンケート (3)

授業を終了するにあたって、1992年6月22日、120名の生徒を対象に実施したアンケートとその結果は、次のとおりであった。

- 1)『遠野物語』の授業で学習したことについて、その感想をア～エの中から選び、記号で答えなさい。その時間に休んでいた場合は、空欄にしておくこと。

1遠野郷の誕生(物語1)について

( )

- 2宮という家の伝承（拾遺138～141）について ( )
- 3「布片」（拾遺141）と「鮭の皮」（拾遺138）の関係について ( )
- 4遠野三山と女神（物語2）について ( )
- 5女人禁制の山（拾遺12）について ( )
- 6ザンキワラシ（物語17）について ( )
- 7ザンキワラシ（物語17）と昔話「鼻たれ小僧様」の関係について ( )
- 8山口孫左衛門という家の盛衰（物語18～21）について ( )
- 9主人と下男の関係（物語19・20）について ( )
- 10オンラサマの起源（物語69）について ( )
- 11人間と異類の結婚について ( )
- 12河童の子を産んだという伝承（物語55）について ( )
- 13「河童らしき物の子」をどう処理するか（物語56）について ( )
- 14物語の書き換え（物語55）について ( )
- 15序文の「目前の出来事」「現在の事実」について ( )
- 16助動詞「き」の働き（物語3）について ( )
- 17助動詞「たり」「り」の働き（物語3）について ( )
- 18昔話「食わず女房」のテープを聞くことについて ( )
- 19三浦哲郎『ユタとふしぎな仲間たち』について ( )
- 20井上ひさし『新釈遠野物語』の「鍋の中」について ( )
- 21「英訳遠野物語」（物語3）について ( )
- ア おもしろかった（興味を持った）。
- イ おもしろくなかった（興味を持たなかった）。
- ウ どちらとも言えない。
- エ よくわからなかった。

	ア	イ	ウ	エ	無
1	36名 (30.0%)	37名 (30.8%)	39名 (32.5%)	8名 ( 6.7%)	0名 ( 0.0%)
2	32名 (26.7%)	34名 (28.3%)	40名 (33.3%)	14名 (11.7%)	0名 ( 0.0%)
3	42名 (35.0%)	24名 (20.0%)	43名 (35.8%)	11名 ( 9.2%)	0名 ( 0.0%)
4	49名 (40.8%)	35名 (29.2%)	28名 (23.3%)	8名 ( 6.7%)	0名 ( 0.0%)
5	41名 (34.2%)	30名 (25.0%)	42名 (35.0%)	7名 ( 5.8%)	0名 ( 0.0%)
6	86名 (71.7%)	16名 (13.3%)	14名 (11.7%)	4名 ( 3.3%)	0名 ( 0.0%)

7	83名 (69.1%)	14名 (11.7%)	18名 (15.0%)	5名 ( 4.2%)	0名 ( 0.0%)
8	77名 (64.2%)	22名 (18.3%)	15名 (12.5%)	5名 ( 4.2%)	1名 ( 0.8%)
9	48名 (40.0%)	35名 (29.2%)	27名 (22.5%)	9名 ( 7.5%)	1名 ( 0.8%)
10	61名 (50.8%)	29名 (24.2%)	21名 (17.5%)	8名 ( 6.7%)	1名 ( 0.8%)
11	66名 (55.0%)	23名 (19.2%)	25名 (20.8%)	5名 ( 4.2%)	1名 ( 0.8%)
12	73名 (60.8%)	23名 (19.2%)	25名 (20.8%)	5名 ( 4.2%)	1名 ( 0.8%)
13	71名 (59.1%)	26名 (21.7%)	20名 (16.7%)	2名 ( 1.7%)	1名 ( 0.8%)
14	45名 (37.5%)	31名 (25.8%)	35名 (29.2%)	6名 ( 6.7%)	1名 ( 0.8%)
15	30名 (25.0%)	38名 (31.7%)	36名 (30.0%)	15名 (12.5%)	1名 ( 0.8%)
16	22名 (18.3%)	52名 (43.4%)	24名 (20.0%)	22名 (18.3%)	0名 ( 0.0%)
17	20名 (16.7%)	50名 (41.7%)	27名 (22.5%)	22名 (18.3%)	1名 ( 0.8%)
18	67名 (55.8%)	21名 (17.5%)	17名 (14.2%)	15名 (12.5%)	0名 ( 0.0%)
19	67名 (55.8%)	26名 (21.7%)	21名 (17.5%)	4名 ( 3.3%)	2名 ( 1.7%)
20	95名 (79.2%)	17名 (14.2%)	7名 ( 5.8%)	1名 ( 0.8%)	0名 ( 0.0%)
21	22名 (18.3%)	51名 (42.5%)	20名 (16.7%)	27名 (22.1%)	0名 ( 0.0%)

2)『遠野物語』の授業(10時間)を受け、その間に遠野を訪れる経験をしてみて、感じたことや考えたことを自由に書きなさい。

- ・遠野は普通の町だったので、『遠野物語』のようなものはどこでも書けるのだろうと思った。「遠野物語」のほうが「遠野物語拾遺」よりおもしろかった。なぜかという、人間じゃないものの話が多かったからです。
- ・遠野は周りを山に囲まれ、昔は本当に山の中だったのだと思ったが、今は随分、自分のイメージした『遠野物語』の世界とは違っていた。遠野も山の奥のほうに行くと、「山男」などが出てきそうだった。遠野の人々も『遠野物語』のころから変わっていると思った。
- ・『遠野物語』を意識しすぎたので、少しがっかりした。民話の世界はつまらなかった。しかし、その奥に隠れていることを考えるのはおもしろかったと思う。
- ・全体的につまらなく、「だからどうした」という感じ。民俗学という分野は多少興味がわいた。
- ・『遠野物語』の中の由来や地名など、実に現実的な感じのする話を実際に行ってみて確かめるというのは、とてもおもしろかった。他の資料を見れば見るほど、何かこの話、遠野に引き込まれていくような気がした。ただ、遠野自体、今さら見て楽しめるものはあまりなかった。

- ・物語の地の遠野を訪れることにより、地方の民俗文化や人情にじかに接触できたことが一番よかった。遠野に行くことによって、物語がよくわかるようになってよかった。ただ物語を読むよりずっとよかったと思う。
- ・『遠野物語』の中では、結構興味深い所が多かったが、実際行ってみると、あんまりパツとしない所が多かったので、少し残念だった。しかし、物語自体はおもしろく、特にザシキワラシの話や山口孫左衛門の話の中では、物語は一見簡単そうに書かれているが、実際は奥が深くとても興味をひかれた。
- ・遠野のような田舎には、都会にはないような昔話があるとわかった。こういう寂しい所だからこそうい話ができるのがわかった。
- ・岩手県内のそう奥地というわけでもないのに（現在は交通機関が発達しているから）、様々な伝承が今もなお多く残っているという点では、とてもすばらしい地域だと思う。が、僕本人としては、井上ひさしの『新釈遠野物語』のほうが読みやすかった。
- ・遠野へ行ってみても、これが『遠野物語』の場所だ、という実感はあまりなかった。『新釈遠野物語』は読んだが、とてもおもしろかった。『遠野物語』よりおもしろかった。
- ・昔話はテープで聞くより、実際に聞いたほうがわかりやすいし、おもしろかった。
- ・まだ昔の日本の面影が残っていると思った。現地の人（？）と話したが、少し難しかった。急いでサイクリングをしたが、そのようなことは似合わないと思いました。のんびりサイクリング、もしくは歩きが似合っていると思いました。
- ・遠野にはたくさんの寺やその他の名所があり、それらを自分達で見てまわり、地元の人からも話を聞いたりしたので、知識は増えたが、地元の人と個別に話したわけでもなく、いまいち感動できるものではなかったように思う。しかし、遠野の旅行にあわせて『遠野物語』の授業をやったのは、それなりにおもしろく、良いことだと思う。
- ・『遠野物語』というのは、過去にあった事実を暗示する内容の話が多く入っているそう。どうやら、まんざら嘘でもないようである。遠野だけにとどまらず、昔話に登場するモノは（特に人の形をとった化け物などは）、昔に行われた「口減らし」をはじめとする事実を反映したものが結構ある。今まで僕は、お伽話というと、せいぜいヒマツブシに読んでり聞いたりしてついたが、これも結構ちゃんとした意味を持っているんだなと思った。
- ・私はこのようなかたちで民話を読むのははじめてだった。そのため、地元の人から聞くのが少なくなってしまった。もっと地元の人から聞きたかったと思う。
- ・『遠野物語』を代表として、民話というものは、深くその土地の地理や産物に関わっているのだと思う。レポートにも書いたが、民話とはその地域におけるあらゆる文化が濃縮還元した姿であることを認識した。
- ・遠野に限らず、地域には、それ独特の物語が伝わっていると思う。遠野以外のものも読んでみたいと思った。

- 『遠野物語』は昔話と違うように思えた。『遠野物語』は現実に関わったことが書いてあることがよくわかる。すばらしい自然の中で『遠野物語』はできたんだなあと思った。
- 『遠野物語』はかたくるしいものだと思っていたが、読んでみると、現在にも通じるころがあり、なかなか楽しいと思った。遠野に行っても、やはりまだ物語が生きているような感じだった。
- 遠野に行ってみて、物語に出てくる場所を回ってみると、想像していたより普通の場所だった。
- あんな山奥にこんなたくさんの昔話があるのがとても不思議だった。
- 遠野は思ったよりもごく普通の町で、そんな町にこんなたくさんの伝説などが残っているのが疑問だった。授業は全体的におもしろかった（井上ひさし、テープなど）。
- いろいろな動物が出てきて楽しいものもあるが、「これはおもしろいのだろうか」と思うようなものもたくさんあった。また、遠野へ行ってみて、物語はこういう大きな自然の中で生まれたのだとつくづく感じた。言葉の使い方を変えて、うまく意味を引き出しているのに感心した。
- 遠野を訪れてみて、『遠野物語』に関する興味が一層深まったと思うので、よかった。
- 何十年も前に来れば、もっと「民話の里」という感じがしたかなといった感じ。もっと「田舎」というイメージを持っていたので、実際行ってみたら、東京と大差がなくて残念だった。
- 遠野の昔からの伝承が忘れられていくのは残念だ。
- おもしろかった。（2名）
- 何より、その物語の多さに驚いた。遠野という一つの土地に数百もの伝承や昔話が残っているということは、それだけ、外からの情報が少なかったということになるのかもしれない。しかし、本当か嘘かというのは別として、そういう中で神様や動物などについての話があるということは、信仰の深さ、動物に対する感情の深さを知らされるものだった。今では観光地として有名になったが、昔からの伝承が今でも残っているということは、感銘を受けた。
- 遠野の風習、物語などには、地方で賢く生きるための知恵、工夫が凝らされていると思った。例えば、生活の知恵を物語にして伝えるなど。また、すばらしい自然があり、住みたいと思った。
- 物語の現場を実際に見て、『遠野物語』だけでなく、民話の世界が一層現実味を持ってきた。
- 昔話や風土調査などはあまり好きではないので、つまらなかった。
- はっきり言って、つまんなかった。『遠野物語』そのもののどこがすばらしいのか、どこ優れているのかがよくわからない。話自体も短いので、つまらない。興味のわかないこと

を授業で受けても、つまらない。

- 遠野に旅行に行ったが、『遠野物語』の学習にならなかった。『遠野物語』もあまりおもしろくなかった。
- 遠野は山奥で交通の便があまりよくないから、このような民話が残ったのだと思った。
- 遠野には名跡がたくさんあるようだが、訪れてみれば、遠野の人々はそのある場所には知っているものの、人はほとんどいなかったし、やはり現地の人にとってはたいしたことはないのだろうか。何となく、神社とか人気がなくて寂しかった。
- 授業で習った昔話と同じ昔話が、「昔話村」にも紙芝居として残っていたことが印象に残っている。百聞は一見にしかずというとおり、授業で学ぶのと現地に行ってみるのでは、やはり現地に行ってみるほうがより多く学べるような気がした。
- ザシキワラシと家の盛衰について、オシラサマと蚕の関係など、『遠野物語』の内容は、人々の暮らしに密接に関係しているのだということを感じた。
- 『遠野物語』ような民話にはじめて本格的に触れて、興味深かった。
- 思ったよりひらけていた。曲がり家などを見る機会があったが、物語と結び付けることができなかった。
- 僕は今まで世界の神話は多々読んできたが、地方の伝説を読んだことはあまりなかった。この授業で、『遠野物語』をやって驚いたことは、文学的にも優れていて、話がとてもおもしろかった。
- ザシキワラシなどの迷信的なことに結びつけられた事実を掘り下げていくと、迷信的なこととは別に、実際にも結果に結び付くことが起きているなど、事実と迷信が裏と表に合わされた世界を見ることができたと思う。また、柳田国男氏が、言葉のはしばしに気を付けて書いているのを知りたいと思った。
- 遠野は、思っていたよりもものんびりしていて自然を楽しめた。『遠野物語』の舞台だったのだから、落ち着きがあってよかった。『遠野物語』は、実際にはありえないと思うけど、あってもおもしろいと思う。英語版『遠野物語』は、少し間抜けだけど、よくできていた。
- 遠野は山に囲まれた「山の静」の面と海と海を結ぶ交通路の中継地の「海の動」の面が合わさった所で、それが多くの物語を生む元となったのだと思った。
- ただごたごたと何を書いているのか、まったく最初読んだときはわからなかったが、それぞれいろいろな理由があり、いろいろなことが込められていることがわかった。井上ひさしについては、よくわからなかったが、まあおもしろかった。
- 『遠野物語』は、他の物語と違って、より現実味があるように思った。
- 遠野には、なぜたくさんあるのだろうかということを考えた。授業を受ける前は、僕は『遠野物語』なんてハッキリだろうと思っていた。僕は、すべてが本当にあった話であるとは、今でも信じていない。ただ柳田国男の創作ではないことがわかった。ちなみに、遠



野の人々はこの物語をあまり信じていないようであった。

- 『遠野物語』と遠野の旅行があまり結び付かないというのが本音です。それは、旅行の時に物語にそっては歩かなかったからかもしれないが、遠野では町の感じが物語とは違う気がした。『遠野物語』は、中位の長さの話がおもしろかった。
- 『遠野物語』は他の桃太郎などの昔話と違って英雄の話もないし、笑える話もない。事実を淡々と述べているだけのような感じがする。しかし、それが読んでおもしろく思えるのは、やっぱり実際に遠野へ行ってきたことが大きいと思う。
- 遠野市には、物語に関する所には説明がかならずと言っていいほど付いていて、本当に遠野郷で聞いたものだということがわかった気になった。テープのヒヤリングも実際に聞いたのも方言が強く、聞き取れなかった。
- ハッキリ言って、なぜこんな町にあんなにたくさんの物語があるのか不思議だった。博物館や昔話村はとってつけたようなものだったからである。
- よくこんなに物語を覚えることができたものだ。物語の舞台となった場所を見ることができてよかった。物語なので、ありえないことが多かった。カップの像がよかった。
- 『遠野物語』は遠野独自の物語だけでなく、日本全国の昔話と関連している点があると思う。
- 『遠野物語』は風土的なものと伝承をからめて書いてあると思った。この物語は遠野の自然がなければ起こり得ないものである。
- 勉強した場所を実際に訪れても、その話のイメージがわくことはなかったが、歴史の重みを感じた。
- 神、ザシキワラシなどうそっぽい話だけれど、読んでもうそっぽくなかった。『遠野物語』の場所には行かなかった。
- 遠野の町中や周辺に点在する小さな建物や碑の一つ一つが、物語のさまざまな所に出てきて、物語を読むのが楽しかった。ザシキワラシや河童などは、『遠野物語』だけでなく、日本各地に伝わっている。しかも、そのほとんどがまったくと言ってよいほど同じような話である。それらの日本各地に伝わっている話と遠野の話がどこかでつながっているとしたら、その起源はどうなっているのだろうか。
- ただ読んでみると、不思議なものがたくさん出てくるだけで、三流の怪談のような『遠野物語』だが、授業のように一つ一つ見てゆくと、遠野の人々の文化などが背後に見えてとてもおもしろかった。この他の様々な民話をもっと注目してゆけばよいのではないだろうか。
- 僕は『遠野物語』は結構いい加減だと思った。文章が妙にうそっぽく、佐々木喜善のざれごとかとも思った。けれども、話自体はまあまあおもしろく、特にザシキワラシなどはよかった。校外指導では、実際の自然、風土などに直接触れられて、本当によい経験をした

と思った。

- 遠野に旅行をしてみて、『遠野物語』の中に出てくる神様などが深く民衆に根付いているのだということがわかりました。『遠野物語』の内容については、神様などの話には別に興味がなかった。柳田国男はすごいと思う。
- あんまりおもしろくなかった。自分達の使う言葉づかいと違うので、面倒くさい。
- 遠野とは実につまらん地域だとつくづく感じた。もうこりごり。
- 授業でやった『遠野物語』の本文は、はっきり言って、信憑性の薄いものばかりでおもしろくなかった。遠野を訪れ、はっきり言って、『遠野物語』とまったく関わりのない所（前森山牧場）へ行こうとしたのだが、そこのおじさんたちにも『遠野物語』の講義を聞き、『遠野物語』が遠野地方に深く浸透しているんだなあとと思った。
- 『遠野物語』は、普通の人々が読む昔話と同じような内容であると思う。遠野に行って思ったことは、町の中から少しでも離れると、物語に出てくるような雰囲気があって、本当にその話があったのではないかと思う場所もあってよかった。
- 遠野を訪れる経験と『遠野物語』の授業とは一切結び付かなかった。授業の中で最もおもしろかったのは、山口孫左衛門家の盛衰に関する話だった。話の順序を巧みに入れ替えて時間を交錯させているのを大変おもしろく思った。また、うまく現実感を出していて迫力があつたと思う。
- 本にもなって出版されて全国に知れわたっているはずの「遠野」なのに、意外にも、最初からの時とあまり変わっていないようだった。結構どろどろした話が多かった。井上ひさしの話は読みやすかった。
- 河童淵と河童のイメージが合いにくい。『新釈遠野物語』は、『遠野物語』をもじったギャップが楽しめた。遠野郷の誕生が興味深い。鮭と関係しているのがよかった。
- 遠野で回った所と物語や伝説の関係が密接だった。物語の舞台にふさわしい所だった。歴史が感じられた。『遠野物語』が今現在起こっていることであるというのには同意しがたい。昔話的なイメージが大きいし、昔話的に楽しめた。
- 遠野は、寺など以外何もない所だと思った。そういう静かな所だから、あのような話がたくさん生まれるのだと思った。授業を聞いても、あの手の話はそこに住んでいる人でないとわからないと思うので、あまり感動しなかった。
- 昔話は最近全然読んだりするということはなかったけれど、『遠野物語』を読んで、なつかしい気がした。以前に読んだ昔話とは少し違う、専門的な感じのする物語だと思った。
- 全般的に「神」に関した話で、遠野の人々がいかに信心深いかがわかった。また、レポートの作成中に、話の作った意図などがわかって、なるほどと思った。
- 遠野を見てみると、なぜ『遠野物語』が存在したのかわかるような気がする。なぜかという、遠野は古い街で、東北にしては人が集まる場所である。しかし、遠野には、たいし

て名所がなく、昭和のころには観光の人はまったく来なかったと言っていい。つまり、古くから伝統のある街でありながら、人が訪れず、そのために古くからの物語が残ったのではないか。さらに『遠野物語』を事前に読んでいたので、なぜそれが存在するのかわかったような気がする。なんとなく怖いような場所もよくあって、なかなかよかった。

- 『遠野物語』の言葉づかいに温かみを感じた。でも、その言葉づかいが難しすぎて、物語がわからないときもあった。オシラサマの話が好き。
- 『遠野物語』を科学的にとらえたところがおもしろかった。実際に遠野へ行ってみて、授業で聞いたことを目で確かめることができた。
- 昔話というのはたいていどこの田舎にもあるものだが、『遠野物語』はとても興味深く読めた。なぜ興味を持ったかという点、『遠野物語』には、昔の人の考え方が他の昔話に比べてよく出ていると思ったから。
- 知っていた昔話の多くが『遠野物語』にあることには驚いた。人々と昔話との深い関わりを身をもって知った。
- 『遠野物語』には、いわゆる普通の昔話のようなものは少なく、悲惨な話だったり、「だからどうした」と言いたくなるような何を言っているのかよくわからない話が多い。しかし、よく考えてみると、その話の背後には、暗い昔の遠野の暮らしぶりが見えてくる。その意味でも、貴重なものだと思う。
- この物語がどのような環境で書かれたかよく知れて、よかった。
- 民話を大切に残そうとして数々の施設をつくっているのに驚いた。一つ一つの話は短かったが、深みがあった。伝承のあった場所を巡ることができてよかった。ザシキワラシやカップなどどこにでもあるような話だが、遠野ならではの数々の伝承といっしょに読んでいくと、改めておもしろい話だと思った。
- 民話というと、くだらない、つまらないというイメージが非常に大きいですが、『遠野物語』を読み、立場・考えを変えた。特にその裏を見るのがおもしろかった。もっとどの話も授業中に深く掘り下げたかった。遠野市は思ったよりも奇麗で田舎臭くなく、それでいて伝統的な雰囲気をただよわしていた。また、東京の文化との違いに驚いた。例えば、青笹中では、生徒が挨拶の時に「オスッ」と言ったことなどがあった。一つ疑問に思った（というか驚いた）ことは、佐々木喜善がよくもまあたくさん話を覚えていて、柳田に話したなということである。そして、よく柳田が書き取ったなと思った。はっきりいってビックリした。
- 『遠野物語』は結構面白かった。特に遠野の語り手さんの話はよかった（というか、本より実際聞くほうがいいという意味で）。ただ序文などの説明みたいのはつまらなかった。もっと物語に接したかった。物語の中では、架空の人物が出てくる物語に興味を持った。
- 遠野に実際に行ってみたが、寺や石碑が多くて、あまり印象に残らなかった。しかし、遠

野で聞いた語り部の話は、印象的だった。また博物館なども結構為になった。『遠野物語』も最初はつまらなそうだと思っていたが、授業をするにつれて結構おもしろいと感じるようになった。

- こういう昔話が豊富にあっていいと思った。
- 遠野が奇麗で、なかなかおもしろかった。こういう話がたくさんあっていいと思う。
- 『遠野物語』は、確かにおもしろい話である。しかし、実際に遠野を訪ねて、話とのギャップを感じた。太郎ガッパなどは最悪である。やはり昔話は聞くだけのほうがよい。
- 『遠野物語』という話は聞いたことがなかったし、柳田国男は知っていたが、民俗学の父とは知らなかった。民話に興味はなかったが、文語で書かれていて読みにくいにもかからず、本当にその地を訪れてからはすらすらと読めて興味を持てるようになった。カップ淵を思い浮かべて物語55から59を読んだりできた。これからも学習の度に旅行（実地体験）がしたい。
- 『遠野物語』は、普通の昔話と違って、めでたしめでたしで終わることが少なく、確かな事実として語られているのが違うと思った。現実味があると思った。
- 遠野という所は何か神秘的なものがあるなーと感じた。遠野の昔話は一般的な昔話とはパターンが少し違うような気がした。
- 『遠野物語』は、人々の間で古くから伝えられてきたものとは違い、現実にあると思うような話（話が新しいこともある）ばかりのため、話に引き込まれるような気がする。
- 『遠野物語』はおもしろくて、実際に遠野へ行ってみると、町の人も話を結構信じているような印象を受けた。『遠野物語』には、結構事実があって、それを大げさに書いているような印象を受けた。
- 遠野の人はゆっくりしていると思った。遠野という所はよい所だと思った。でも、僕みたいなせわしない人間が行くと、一か月で飽きると思う。『遠野物語』の話は楽しいが、文語調の文章を読むのはたいへんだった。今度の夏休みに遠野の行くグループがあるそうだが、僕もまた別の機会に行ってみたいと思う。
- 『遠野物語』の書き方を見て、旅行で昔話を聞いたことにより、東京の標準語との違いから、遠野と東京は昔はとても遠かったことを自覚した。だからこそ、『遠野物語』が生まれたのだと思う。
- 遠野にはいろいろな話が百あまりあるというのは、確かにすごいと思う。実際に遠野へ行ってみると、確かにその類の話がたくさん出てもおかしくないと思った。特に、山に囲まれているので、その山を舞台にさまざまな物語ができそうである。また、全国の発祥地である原因として、やはり交通の要所として栄えたからであろう。また、帰ってきてから授業を受けて、この物語は西洋の伝承にも勝るとも劣らない、すばらしい物語だと感じた。『新釈遠野物語』はパロディーであるが、パロディーができるということは、それだけ

『遠野物語』がおもしろい話だということを表していると思う。また、『英訳遠野物語』は、『遠野物語』が西洋の伝承にも勝るとも劣らないことを示すものであると思う。『遠野物語』は以上のような理由ですばらしいと思う。

- ということはレポートに書くつもりです。で、やっぱり、『遠野物語』を熟読してから遠野に行けばよかったと深く後悔しております。でも、読まずに行ってもあんなに感動したのだから、読んでから行けば感動いかにばかりであっただろうか。また遠野に行きたいです。だれかいっしょに行かないか。
- 実際に現地に旅行していたので、『遠野物語』は現実味があり、とてもおもしろく感じられた。旅行する前に『遠野物語』をもっと深く読んでいけば……と思った。
- 教室では読んで聞くだけであったが、実際に現地へ行き、じかに見てじかに聞くことにより、民話のできたわけやその背景がよくわかった（つもりだ）。もう少し早く『遠野物語』を読んでおけばよかった。
- 遠野のことを勉強し、実際その土地に行ってみてきたことは、よかったことだと思います。『遠野物語』を本だけで勉強するのではなく、その土地に行き、実際に触れてみたということは、大変意義あることでおもしろかったです。
- 『遠野物語』なんて、まったく知らなかった。勉強を始めたころも、ただのお話だと思っていた。でも、実際にいろいろな説明を聞き、奥の深さを感じた。
- 『遠野物語』の背景には、飢饉があるらしい。物語自体はおもしろくない。
- 遠野に行っておもしろかったのは方言による昔話で、言葉は少し違ったけれど、とてもよくわかった。カッパ淵に行ったとき、カッパ淵は思ったより小さかったし、細長くて川のようにだったが、深さがよくわからず不気味だった。
- 『遠野物語』の伝承の多くは、間引きや婆捨て山などの事実や、蚕などの生活に密着したものの伝説化が多く、当時の生活がうかがえ、おもしろかった。
- 神社の多い町だったので、たぶん遠野の人々の信仰心は強かったと思う。だから、このような物語がたくさん生まれたんだと思う。
- 『遠野物語』には、興味深いものがいくつもあった。昔話はおもしろく聞ければそれでいいと思う。遠野に行ったが、墓や古い神社に行っただけで、おもしろくなかった。昔話を生で聞けたのはよかったと思う。
- 遠野は美しい。文化と伝統の温かさよ……。
- 遠野の村々に伝わる伝承には、興味をひかれた。柳田国男がひかれたのもわかるような気がする。
- 遠野はいかに、という所だった。物語自体はそれほどおもしろくなかった。
- 昔話はただ聞くだけなら楽でおもしろいけれど、勉強するとおもしろさが損なわれる。でも、それも、細かい所にも気付けるという利点もある。

- ・なぜ遠野にこんなにたくさんの昔話があるのかが不思議だった。昔話はだれが何のために作ったのかが知りたかった。
- ・実際は『遠野物語』と遠野のことについて、ろくに前調査もせず行ったため、遠野の風土も奥に秘められたことも知る事ができず、帰ってからその土地がどういうものかというのがわかった。そう思うと、実際に足で回った所が物語の舞台になっているので、後になってその深みがわかった。
- ・あまり調べないで遠野へ行ったので、帰ってきてから、もうちょっとよく見てくればよかったと思うところがいくつかあった。しかし、自然の豊かさには感動した。
- ・授業は旅行に行く前にやっていたほうがよかった。というのは車中で目を通すだけではあまり理解できなかったから。でも、遠野はすばらしい所で、その風景を思いながら再び読んでみると、なるほどと思うことがしばしばあった。だから、よかったと思う。
- ・旅行へ行って、昔話村に行き、生の昔話を聞いて、ただ『遠野物語』を読むのと違い、深く感じる事ができた。
- ・一口に『遠野物語』と言ってもたくさんあり、あんな小さな町に、よくそんな数があるなあと思った。
- ・遠野で昔話を話してくださった方が昔話を二百近く知っていることを知って驚いた。あんなに小さな町なのに、たくさんの民話がつまっているというのはすごいなあと思った。
- ・一つの町に、これだけたくさんの物語があるとは意外だった。このような物語はやはり伝承すべきである。

#### 【考察】

- A1) では、アおもしろかった（興味を持った）やイおもしろくなかった（興味を持たなかった）という印象はともかく、エよくわからなかったとする回答が少なかったのには、ほっとした。冒頭の第1節に述べたように、『遠野物語』を採択する教科書は中学校にはなく、高等学校にあるだけ（しかも対象は高2、高3を想定している）だからである。そうした心配を抱きながら始めた授業であれば、生徒の理解についてはほぼ目標が達成されたと考えられる（学期末試験に出題して、そのできがいいかどうかとは無関係）。まだ、古典文学に親しむ程度で、文語文法（古典文法）をほとんど学んでいない中3に正しく読むことができるのかという疑問もなくはないが、むしろ、『遠野物語』は文語文であっても、明治末期に書かれた擬古文であり、平安時代を中心とした古典文学の世界に比べれば、まだ身近なのかもしれない。エよくわからなかったとする生徒がやや多いのは、16助動詞「き」の働きと17助動詞「たり」「り」の働き、そして、21「英訳遠野物語」である。
- B1) の16助動詞「き」の働きと17助動詞「たり」「り」の働きは、15序文の「目の出来事」「現在の事実」を表現としておさえるために、欠くことのできないものであることを考

察しようとした。時枝誠記の言う「詞」が物語の内容であれば、「辞」は物語の表現であると考えて、「き」や「たり」「り」を重視したのであるが、イおもしろくなかった（興味を持たなかった）とエよくわからなかったという生徒が、あわせて6割以上いるというのは、授業の内容と方法に問題があったということになる。15序文の「目前の出来事」「現在の事実」についても、イおもしろくなかった（興味を持たなかった）とエよくわからなかったという生徒が、あわせて4割を超えることも、連動しているようだ。文語文法（古典文法）の知識のほとんどない生徒に、助動詞の働きから説明するのは、やはり困難だったかと思わざるをえない。また、物語文学や説話文学などを読んできた経験がないと、なぜこうした文体をとったのかという戦略的な意味は、これまたやはり指導しにくいこともわかった。『遠野物語』に限らず、こうした近代の擬古文から文語文法（古典文法）に入る方法については、生徒の動機づけや問題意識をさらに調べて、改めて取り組んでみたい事柄である。

C1) の21「英訳遠野物語」についても、イおもしろくなかった（興味を持たなかった）とエよくわからなかったという生徒が、あわせて6割を超えることも、やはり大きな問題として残された。訳された英文を授業の中で読み合う時間がなかったので、こうした結果が出てしまったのは仕方のないことであった。本校英語科の久保野雅史氏にうかがってみると、いくつかの単語の説明を与えれば決して読めないことはない、という回答を得たので、事前の教材研究を積んで、場合によっては英語科との共同授業にしてみることも可能だろうと考えた。『遠野物語』の英訳には、他に Ronald A. Morse 『THE LEGENDS OF TONO』(THE JAPAN FOUNDATION) があるので、本編「遠野物語」については比較しながら読むことも可能である。こうした英訳は、『遠野物語』を世界へ向けて押し出してくれた貴重な仕事であるにもかかわらず、まだ正当な評価が与えられていない。むしろ、教育の現場こそがこうした仕事を評価できるのではないか、と思うので、改めて授業の方法を考えてみたいと思う。

D2) は、大きくスペースを取ってしまったが、回答のすべてを、ほぼそのままのかたちで載せた。特に分類したり、傾向を調べたりすることもしなかった。回答を寄せた一人一人の声、それだけがすべてだと考えたからである。この『遠野物語』の授業に拒否反応を示したまま終わってしまった生徒もほんの少しいるが、ほとんどの生徒は『遠野物語』と遠野とからかけがえのないものを学んだようである。

## (6) おわりに

『遠野物語』と教育』ということ言えば、今年、地元遠野から貴重な本が2冊出されたことが挙げられる。1冊は、遠野市立上郷中学校『中学生による口語訳遠野物語』（同校、1992年）であり、もう1冊は、後藤総一郎監修・佐藤誠輔訳『〔口語訳〕遠野物語』（河出書房新社、1992年）である。前者は「遠野物語」「遠野物語拾遺」の口語訳であり、後者は「遠野物語」の口語訳である。なぜこの時期に相次いで『遠野物語』の口語訳が出されることになったのだろうか。

前者は、校長菊池文彰氏の言葉によれば、「「全校生徒に一度は遠野物語を最後まで読ませたい」と考え、遠野物語読む会をつくり勉強してきました」という教育実践が行われ、その成果として刊行されたものである。また、後者は、監修の後藤総一郎氏の言葉によれば、「地元のみなさんが、六年前からはじめられている、「注釈『遠野物語』」の勉強会（遠野常民大学）で、佐藤誠輔さんの「口語訳」のレポートを聞いて、そのわかりやすさと味わい深さに、深い感銘を受けたのでした」ということがきっかけで刊行されたものである。この『遠野物語』の口語訳、特に本編「遠野物語」の口語訳は、実は昭和10年に増補版を刊行するときに、柳田自身の構想にもあったことだった（「再版覚書」）。それゆえ、強いて言うなら、こうした口語訳は、柳田が断念した構想を受け継いで実践してみせたのだ、と考えることもできる。

そして、もう一つ「『遠野物語』と教育」ということで、注目したいことがある。筑波大学の学生であり、「坊ちゃん文学賞」を受賞した小説家でもある中脇初枝氏を「世界民話博覧会「高校生のための講演会」」に招いたことである。彼女は徳島県の生まれであるが、小学校の時に初めて『遠野物語』を読み、それがきっかけになって日本民俗学を専攻するようになったという。その講演の内容は、『遠野常民』第6号（遠野常民大学、1992年10月）に掲載されている。具体的には、「私は小学校六年生のときに初めて『遠野物語』を知りました。国語の教科書にのっていたのです。「マヨイガ」の一節でした。興味をもった私に担任の先生が教えてくれて、私は母に頼んで『遠野物語』を買ってもらいました。『遠野物語』は文庫で買うと、文語体で書かれた『遠野物語』と、口語体で書かれた『遠野物語拾遺』とに分れています。勿論、その頃の私には、『遠野物語』の方は読んでも分からなくて『拾遺』の方ばかり読んでいました。でもそれが悔しくて、分からないなりに文語の方も読んでいたら、いつの間にか分かるようになっていて、古典の授業がとても楽でした」などと話している。こうした同世代の人の講演を聞いて高校生がどう感じたかということは、『遠野常民』第8号（遠野常民大学、1992年12月）に掲載されている。

今年、本校の中3は、こうしたことが実現する直前に遠野を訪れたことになる。地元遠野に、「『遠野物語』と教育」ということを真剣に考えようとする機運があり、そうした中を訪れることができたのは、この上ない幸せだったと言っていい。地元遠野では、『遠野物語』を理解したり、学習したりすることは、郷土を理解したり、学習したりすることになる。しかし、本校の中3はもちろんのこと、遠野以外の土地に暮らす生徒にとって、当然のことながら「郷土」という意識はまったくない。しかし、そうした郷土を理解したり、学習したりすることが内へと閉ざされるのでないかぎり、我々は別の立場からそれらを取り入れることができるはずである。また、我々が、逆に本家本元の地元遠野に対して教えられることがもしあるとすれば、『遠野物語』を日本、そして世界に向けて開いたところから見る視点を提示することだろう。日本では、研究と教育とが二分されているために、『遠野物語』の研究が進められても、それが教育に関わってくることはなかったし、逆に、『遠野物語』の教育が進められても、それが研究を動かすことはなかった。しかし、もうそうした不幸な状況に、そろそろ終止符を打ちたいものだ。そうしたことを実践し



てゆこうとするとき、指標になるのはやはり柳田ということになるにちがいない。なぜなら、日本の民俗文学について、その研究と教育の両方から考えようとした人は、おそらくこれまで、柳田一人しかいなかったと思われるからだ。

〔付記〕本稿を成すまでに、特に中3の担任団（井上正允、立石宏和、丸浜 昭の各氏）にお世話になった。あらめてお礼申し上げたい。また、「『遠野物語』を読む」というテーマで生徒が書いたレポート集は、経費の関係で刊行できなかったが、コピーをとって若干の本を作成した。なお、中3の旅行報告として「岩手があるく——花巻・遠野・盛岡を中心に——」が刊行された。

『遠野物語』を読む (10時間計画)

1) テキスト 柳田国男『遠野物語』(角川文庫)

\* ほんとうは新潮文庫のほうがよいが、現在、品切で使えないので、妥協しました。

2) 予定	5月11日(月)	遠野という場所ー「大昔」と「今」ー
	5月16日(土)	序文ー柳田国男と佐々木喜善ー
	5月18日(月)	オシラサマー異類婚姻譚の問題ー
	5月25日(月)	ザシキワラシー家の盛衰の問題ー
	5月30日(土)	カミカクシー子供と女性の問題ー
	6月1日(月)	文体ー「物語」と「拾遺」ー
	6月8日(月)	時間ー現在の事実ー
	6月13日(土)	空間ー怪異の起こる場所ー
	6月15日(月)	話型ー物語と歴史ー
	6月22日(月)	井上ひさし『新釈遠野物語』

3) 評価 「『遠野物語』を読む」というテーマで書く

- ①授業のまとめではなく、自分で考えてください。
- ②指定された用紙に清書してください(そのまま印刷するため)。
- ③参考文献を末尾に書いてください。
- ④1学期の成績に20点満点で数えます。
- ⑤レポートは学校の図書館や遠野の図書館に残します。
- ⑥提出期限は6月29日の午後1時までとします。

- 4) 参考資料
- ・ 稲田浩二他編『日本昔話事典』(弘文堂)
  - ・ 野村純一他編『遠野物語小事典』(ぎょうせい)
  - ・ 菊池照雄『『遠野物語』を歩く』(講談社)
  - ・ 菊池 幹『遠野路』(海南書房)
  - ・ 三浦佑之『村落伝承論』(五柳書院)

この他にもたくさんありますが、それらを読むことより、意味のわからない言葉などを自分で調べながら、一つ一つの物語を読むことから始めてください。どうしても見付けられない場合は、準備室にでも来て相談するとよいと思います。「物語の現場」という視点から、実際に見学した所の写真などを入れながら書いてもかまいません。枚数は制限しませんから、ユニークな力作を書いてください。

資料②

108 食わず女房(一)

むかし。

ある所にやもめ男あつたんだと。

「物食ね嫁御、欲す欲す」て言つたば、ある時、きれいな女子来て、

「おれ物食ねがら、噂にしてけろ」て言つたがら、喜んでもらつたど。

暫く稼いで、何年も稼いで物食ねがら、不思議だと思つて、ある時、山さ行く振りして馬屋桁さ上がつて見でだすもな。そしたけ、噂が五斗俵がら米出して、馬釜で煮で、そして握つて、伸し板さ並べて、鱈どいう魚を六連焼いで、頭の峠(てっぺん)分けてがら、ドンドン、ドンドンと頭の峠さ握りこ入れて、魚を入れて食つたんだど。

亭主あ、不思議だ、不思議だと思つてだば、山姥だつたなど馬屋桁でひとり悔みしてがら、山がら来た振りして、馬屋の口(馬屋の前)さ来て、ツマゴ(首巻)の雪払う振りして、ドスンドスンと足音立てて入つて来たば、噂も見られだと思つたがら、その晩がら腹痛みしたんだど。そしたけ、亭主あ、

「ただ見でだつてわがanneがら、おれ、巫女さま頼んでくつから」て言つて、巫女さま頼みさ行つてがら、きしまに(来る途中)、

「五斗俵の祟りがー。鱈六連の祟りがー」て、御祈禱してけろ」て言つたがら、巫女さまさういう風に拝んだ

ど。そしたけ、噂、わがられだと思つて、ごっしえやいで(怒つて)山姥になつて、亭主食んべどしたがら、亭主はたまげで、先さ立つて逃げだんだど。すたけ、噂が髪分けて、頭の峠の口開えて追つかげだどさ。ずうつとどごまでも追つかげだど。

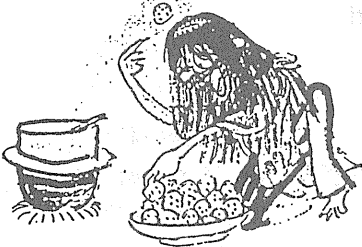
亭主あ、どこさ逃げたら良かんべなと思つて、うんと走せだ、走せだ、走せだ揚句、川端に菰蒲と蓬うんとおがつた(生えていた)がら、そこさ逃げ込んだどころが、山姥あ、

「ほにさな、この中さ入んねば、この男食つ殺すども、この中さ入れば、おれ体溶けですむし、悔すじえ」て、山さ戻つてつたんだどさ。そのうちに亭主あ蓬の中がら出はつて来てがら、大っきな息ついで、われ家さ行つたどよ。

その日は五月四日だつたど。五月の節句に屋根棟さ菰蒲と蓬さすのは、その魔除げのためなんだどさ。

どんどはれ。

(阿部サダ)



毛筆初稿本（池上隆祐氏旧蔵）	初版（聚精堂、1910年）本
<p>五十五、川には河童<sup>カワコ</sup>多く住む猿ヶ石川殊に多し松崎村の川端の家にて二代迄つゞけて河童の子を孕みたる者あり生れし子は斬り刻みて一升樽に入れ土中に埋めたり形極めて恠しきものなりき女の里は新張村の某此も川端の家なり其主人人に其始末を語れり彼の家一同或日畠に行きて夕方帰らんとするに女川の汀に踞りてにこ／＼と笑へり次の日の昼休にも同じことなりかくすること日を重ねしに其頃其女の許に村の某といふ者通ふといふ噂たてり始は里が濱へ駄賃附に行きたる留守を窺ひしか後には里とねたる夜さへ来るなり河童なるべしといふ評判高くなりたれば一族集りて之を守れとも何の甲斐も無く里の母も行きて娘の側に宿りしに深夜其女の笑ふ声を聞きさては来てありと知りながら身動きもかなはず人々如何ともすべきやうなかりき其産は極めて難産なりしに或者の曰く馬槽に水をたゝへ其中にて産まば安からんとのこと之を試みれば果して然りき其子は手に水掻あり此女の母も亦曾て河童の子をうめりと云ふ二代や三代の因縁にては無しといふ者もあり此家も如法の豪家にて白岩市兵衛といふ士族なり村會議員をしたることもあり</p> <p>（「なし」の「し」を消し、「かりき」に改め、「産めば」の「め」を消し、「ま」に改める）</p>	<p>五五 川には河童<sup>カワコ</sup>多く住めり。猿ヶ石川殊に多し。松崎村の川端の家にて、二代まで續けて河童の子を孕みたる者あり。生れし子は斬り刻みて一升樽に入れ、土中に埋めたり。其形極めて醜恠なるものなりき。女の里は新張村の何某とて、これも川端の家なり。其主人人に其始終を語れり。かの家の者一同ある日畠に行きて夕方に帰らんとするに、女川の汀に踞りてにこ／＼と笑ひてあり。次の日は晝の休に亦此事あり。斯くすること日を重ねたりしに、次第に其女の所へ村の何某と云ふ者夜々通ふと云ふ噂立ちたり。始には里が濱の方へ駄賃附に行きたる留守をのみ窺ひたりしが、後には里と寝たる夜さへ来るやうになれり。河童なるべしと云ふ評判段々高くなりたれば、一族の者集りて之を守れども何の甲斐も無く、里の母も行きて娘の側に寝たりしに、深夜にその娘の笑ふ声を聞きて、さては来てありと知りながら身動きもかなはず、人々如何にともすべきやうなかりき。其産は極めて難産なりしが、或者の言ふには、馬槽に水をたゝへて其中にて産まば安く産まるべしとのことにて、之を試みれば果して其通りなりき。その子は手に水掻あり。此娘の母も亦曾て河童の子を産みしことありと云ふ。二代や三代の因縁には非ずと言ふ者もあり。此家も如法の豪家にて〇〇〇〇〇〇と云ふ士族なり。村會議員をしたることもあり。</p> <p>（「者」「帰」「来」「産」「難」「縁」は旧漢字）</p> <p>書き替え…①大幅に行う。特に「〇〇〇〇〇〇〇」とする。②片仮名で振り仮名を大幅につける。</p>

to sleep, the mother goddess promised to her daughters that she would give the most beautiful mountain to the one who would dream the sweetest during the night. Then, late at midnight, heavenly flowers came down floating in the air on to the bosom of the eldest sister. The youngest one, having awoke and stolen the flower secretly, put it upon her bosom, and thus she was given the most beautiful mountain Hayachine. The 2 sisters were given Rōkkoushi and Ishigami. In this way, each young sister goddess came to take possession of her own mountain, and rule over it. So the women in Tōno are told not to go up this Hayachine for fear of her jealousy even to-day.

3 In the depth of a mountain, there lives a wild-man. A man named Sasaki Kahei, more than 70 years old, is still alive at Wano in the village of Tochinai. While he was young, he went hunting in the depth of a mountain one day, and he found a beautiful woman combing her long black hair upon a rock. She was very fair. Bold and fearless, he raised his gun, aimed at her and the moment he fired the gun, the woman fell down. Running up to her, he found she was rather tall, and her black hair untied was much longer than her height. He cut a lock from her head as a token. Soon he began to go homeward with the lock in his bosom, but on the way he felt too sleepy to bear any longer and for some hours he slept somewhere in the shade. But while he was half asleep and half awake, it happened that a man as tall as the woman he had shot came approaching to him and put his hand into his bosom and ran away with the lock he had kept. At that moment he was wide awake. "He must have been a wild-man in the mountain", said the old man.

4 In the village of Yamaguchi, the master of the house called Kichibei went up into the mountain named Nekkodachi. After having cut dwarf-bamboos there, he packed them into a bundle and with the bundle on his back, he was going to stand up, when he heard the wind rustling over the dwarf-bamboo thicket. He turned to see. A young woman with a baby on her back came walking over

## 資料⑤

中三 国語 一学期末テスト(石井 七〇点満点)

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(一六点)

三 山々の奥には山人住めり、堀内村和野の佐々木喜兵衛といふ人は①今も七十余にて生存せり。この翁若かりし頃、山奥に入りしに、はるかなる岩の上に美しき女一人ありて、長き黒髪を流りてゐたり。顔の色きはめて白し。②不敵の男なれば直に腕を差し向けて打ち放せしに弾に應じて倒れたり。そこに馳け付けて見れば、身のたけ高き女にて、解きたる黒髪はまたそのたけよりも長かりき。後の③晩にせやと思ひてその髪をいささか切り取り、これを結んで懐に入れ、やがて家路に向かひしに、路の程にて耐へがたく睡眠を催しければ、しばらく物陰に立ち寄りてまどろみたり。その間夢と現との境のやうなる時に、これも丈の高き男一人近より懐中に手を差し入れ、かの結ねたる黒髪を取り返し立ち去ると見ればたちまち睡りは覚めたり。□なるべしといへり。

問1 線部a・bの読み方を答えなさい。(二点)

問2 線部①の叙述は、この物語の中でどのような役割を果たしているか。(三點)

問3 線部②のような叙述が、ここに必要なのはなぜか。(三點)

問4 線部③の活用形は何形か。漢字で答えなさい。(二点)

問5 空欄に入る最も適当な言葉を、次のア・イの中から選び、記号で答えなさい。(二点)

ア 山人 イ 山女 ウ 山男 エ 佐々木喜兵衛 オ 黒髪

問6 この物語の中から、次のA・Bの助動詞を見付け、その数を算用数字で答えなさい。その際、活用していることに注意すること。(4点)

A 過去の意味を表す「き」 B 存続(完了)を表す「たり」と「り」

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(一四点)

(一) 孫左衛門が家にては、ある日梨の木めぐりに見馴れぬ茸のあまた生えたるを、食はんか食ふまじきかと男共の諍議してあるを聞きて、最後の代の孫左衛門、食はぬがよしと制したれども、下男の一入がいふには、いかなる茸にても水桶の中に入れて亭殿をもちてよくかき廻して後食へばつしてあたることとて、一同この言に従ひ家内ことごとくこれを食ひたり。七歳の女の児はその日外に出て遊びに氣を取られ、昼飯を食ひに帰ることを忘れたために助かりたり。不意の主人の死去にて人々の動転してある間に、遠き近き親類の人々あるひは生前に貸しありといひ、あるひは約束ありと称して、家の貸財は味噌の類までも取り去りしかば、この村草分の長者なりしかども、一朝にして跡方もなくなりたり。

(二) ギンキワシまた女の児なることあり。同じ山口なる旧家にて山口孫左衛門といふ家は、童女の神二人いませりといふことを久しく言ひ伝へたりしが、ある年同じ村の何某といふ男、町より帰るとて留場の橋のほとりにて見馴れざる二人のよき娘に逢へり。物思はしき様子にてこちらへ来る。お前たちはどこから来たと問へば、おら山口の孫左衛門が処から来

たと答ふ。これからどこへ行くのかと聞けば、その村の何某が家にと答ふ。その何某はやや離れたる村にて、今も立派に暮らせる豪農なり。さては孫左衛門が世も末だと思ひしが、それより久からずして、この家の主従二十幾人、茸の毒にまらりて一日のうちに死に絶え、七歳の女の子一人を残せしが、その女もまた年老いて子なく、近き頃病みて失せたり。

(三) 右の孫左衛門は村には珍しき学者にて、常に京都より和漢の書を取り寄せて読み耽りたり。少し寂しい方なりき。狐と親しくなりて家を富ます術を得んと思ひ立ち、まづ庭の中に権柄の祠を建て、自身から上りて正一位の神格を請け取り、それよりは日々一枚の油揚げを欠かすことなく、手づから社頭に供へて拜をせしに、後には狐馴れて近づけども逃げず。手を延ばしてその首を抑へなごしたりといふ。村にありし薬師の常守は、わが仏様は何物をも供へざれども、孫左衛門の神様よりは御利益ありと、たびたびの笑ひごにしたりとなり。

(四) この兎婆の前にはいろいろの□ありき。男ども将り置きたる珠を出すとして三ツ齒の鉄にて掻きまはせしに、大なる蛇を見出したり。これも殺すなど主人が制せしをも聴かずして打ち殺したりしに、その跡より森の下にくらともなき蛇ありて、うごめきいでたるを、男どもおもしろ半分にことごとくこれを殺したり。さて取り捨つべき所もなければ、屋敷の外に穴を掘りてこれを埋め、蛇塚を作る。その蛇は實に何荷ともなくありたりといへり。

問1 (一)～(四)を正しい順序に並べなさい。(二点)

問2 線部のようにしたのとはなぜか。(三點)

問3 空欄に入る最も適当な言葉を、次のア・イの中から選び、記号で答えなさい。(二点)

ア 予言 イ 事故 ウ 怪異 エ 事件 オ 前兆

問4 この山口孫左衛門という家が没落した理由を、「下男(男)」という言葉を使って説明しなさい。(三點)

問5 問題文の物語(出典は「遠野物語」)の語り手と書き手を、それぞれ漢字で答えなさい。(4点)

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(一五点)

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。①舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて毛を迎ふ者は、日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予もいつれの年よりか、片雲の風にまよはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、②こそ秋、江上の葦屋に蜘蛛の古巣をばらひて、やや年も暮れ、③暮立てる霞の空に白河の關越えんと、④こそぞ神の物につきて心をくるはせ。道祖神の招きにあひて取るもの手につかず、⑤散りの散れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に参する⑥より、松島の月まづ心にかかりて、⑦住めるかは人に譲り、杉風が別荘に移るに、草の戸も住み替はる代ぞ雛の家、表八句を庵の柱に懸け置く。